

報告ダイジェスト

- | | |
|-----------|-------|
| ・マレーシア出張 | (報告1) |
| ・総会報告 | (報告2) |
| ・鎌倉お泊り会企画 | (報告3) |

報告1 マレーシア出張

出張期間：4/28～5/6(谷口:4/25より出発)
出張メンバー:谷口奈保子、梶川里穂、竹森由穂、長澤美佳、玉井七恵

昨年1月にぱれっとのスタッフ4名が、1997年に中澤健さんがペナンに設立した障がい者支援団体 ACS(アジア コミュニティ カンパニ)で講演をしました。その時に受講された水島晴美さんがぱれっとの活動や商品に共感され、マレーシアで行なうイベント「Warm heARTs」に5名を招待して下さいました。水島さんは Syiok Wasabi という団体を佐藤美奈さんらと立ち上げ、様々なアートイベントを手がけています。現在マレーシアでは障がい者の就労に力を入れており、現地の人たちにぱれっとの取組みを伝える機会を提供して下さいました。

●みんなが応援!

今回の出張では通所員2名が渡航し、実際に仕事を見てもらう大きな役割がありました。出発前に現場の仲間が壮行会を開いてくれ、エールが送られました。「代表として頑張ります」と堂々と応える二人の言葉はとても重みがあり、この壮行会が、さらに二人の出張への意識を高めたことは言うまでもありません。

●Warm heARTsに参加

現地の人も驚くほどの猛暑の中、マレーシアに到着した翌日からさっそくイベントの準備です。古いバス倉庫だった Hin bus art depot という会場はおしゃれで開放感溢れる空間でした。世界遺産のジョージタウンにある為、歴史の好き

な竹森さんは「これも世界遺産!」と大興奮でした。20mの長い壁には150体のうさぎの人形らぶらび“が、地元アーティストの手により墨で描かれたマレーシアの都会や田舎の風景に溶け込むように展示され、そのインパクトの大きさに感動で胸がいっぱいになりました。



【素敵な展示に感動!】

大勢のお客様を招いたティーパーティーでは梶川さんも竹森さんも初めて会ったとは思えないほどすぐにみんなと仲良くなり、言葉だけではない二人のコミュニケーション力の凄さを感じました。その後のトークシェアリングでは、現場の様子を玉井が話し、多くの方が耳を傾けて下さいました。また現地のマスコミから取材を受けるなど、イベントへの注目と関心度の高さを感じました。

●販売とデモンストレーション

いよいよぱれっとのクッキーやマグネット、Tシャツなどを販売します。竹森さんは持ち前の明るさで「ジャパニーズクッキー」と大きな声で宣伝をしたり、自分はケーキ製造担当だとパネルを見

せ積極的にアピールします。梶川さんはらぶらび作りのデモンストレーションです。お客様の質問に分かる英語やジェスチャーで答える姿は、伝えたい気持ちが自然とでており、やりとりを楽しんでいました。二人の頑張る姿は仕事への自信と誇りの表れだと強く実感しました。



【みんなでイベント
準備頑張るぞ】

●マレーシアでの生活

今回宿泊したコンドミニウムでは地元のスーパーマーケットで食材を買い、料理などの家事もしました。野菜を切る人、炒める人などみんなで分担をし、洗濯と掃除も毎日行ないました。



【料理美味しく
できるかな】

普段自宅では家族がしてくれる家事もここでは自分たちで行ないます。毎日の生活の中では、なかなかできないとてもよい経験ができたと思います。職場とは違った雰囲気でのみんなとの生活は、とても新鮮で賑やかでした。

●ペナンの福祉施設を見学

福祉施設の見学にも連れて行っていただきました。ぱれっととの繋がりの深いACSはパン、さをり織り、石けんなどの魅力的な製品作りをしています。ご

厚意でろうけつ染めの体験もさせていただきました。ろうで絵を描くのは想像以上に難しかったですが、障がいのある方々が丁寧に教えて下さり、思い出に残る作品が作れました。

次に今年1月より障がいのあるお子さんの親御さんが中心となり、運営しているPEKAKA WORKSHOPというマフィンの製造・販売をしている就労訓練施設にも伺いました。竹森さんは仕事の経験を生かし、生地型の型入れをみなさんにお見せしました。PEKAKAのスタッフはぱれっとが培ってきた地域との関係作りや運営方法などに強い関心を持たれ、たくさんの質問をされていました。

●マレーシアの異文化にふれて

仕事から離れて、水島さんと佐藤さんに観光案内もしていただきました。「ペナン・プラナカンミュージアム」というマレーシアと中国の文化が融合した古い建物やたくさんのスパイスが並ぶインド街を見学しました。大型布地屋では種類の多さとカラフルな色に目を輝かせながら、工房ぱれっとで使う布地を梶川さんが中心となって選び購入しました。どんな作品ができるのか楽しみです。



【色々なスパイスに驚き】

●感想

【おかし屋ぱれっと 竹森由維】

販売が良くて、ご飯もおいしかったし、博物館みたいな所も行ってよかったです。販売は「いらっしやいませ」も英語

で言えました。お客さん(外国人)の話していることが難しかったです。水島さんと佐藤さんはとてもやさしくしてくれました。色々な料理を食べに連れて行ってくださいました。たくさん初めての料理もあったけど、すごくおいしかったです。

【工房ぱれっと 榊川里穂】

8日間、家族のいない所で料理をしたり、掃除機をかけたり、洗濯をしたり、大変だったけど楽しかったです。玉子焼きを作ってみんなが美味しいと言ってくださいました。工房ぱれっとの代表として頑張ろうと思いました。英語で話すのを頑張りました。お客さんとたくさん写真を撮ったり、会話をしました。ボランティアさんと友だちになりました。すごく緊張したけど楽しかったです。

【主催者 Syiok Wasabi 水島晴美様より】

今回、ぱれっとの皆さまとご一緒にイベントをさせて頂きメンバー一同、感謝の気持ちでいっぱいでございます。思えば昨年ペナンで谷口様をはじめスタッフの方々のトークシェアリングを偶然にも拝聴できる機会があり、そちらの活動を知ることができました。皆さまのお話もさることながら、その時私は「らぶらび」に目が釘付けになりました。大胆にも「よし！これはペナンで何かできる！」と直感的に思い、このような形で展示会の運びとなったのです。開催するに当たって、資金面、趣旨の内容の見直し、他の障がい者施設への参加要請のコンタクト等で何度も迷いや計画が頓挫し、自分達の「するんだ」という意志が試される場面も多々ありましたが、何とか開催ができ、改善すべき点もありますが、感無量でございます。私達は、ほんの一握りの障がい者の方としか知り合いがいませんでしたので、榊川さんや竹

森さんにどう接して差し上げたら良いのか開催前から不安でしたが、それは杞憂に終わりました。さて、私達の最大の難問はタイトル付けでした。私達が感銘を受けたアート作品は偶々、障がいの持った方々の作品で、それは素晴らしいし、展示会を開く価値があると思ったのです。ですから障がい者アートという枠を取り除き行ないたいと考えました。その一方、マレーシアの障がい者及びそのご家族にはこの展示会を見て何かのきっかけになって下さればという願いと、一般の方には何の抵抗も持たず作品を見て頂きたいという気持ちがあったのです。そうした経緯でタイトルはWarm^{ウォーム} heARTs^{ハーツ}になったのです。そしてもう一つ大切なのは展示場所です。Hin bus^{ヒンバス} art depot^{アートデポ} は今ペナンで最も人気がある場所で、大変好評でした。今回の件で榊川さん、竹森さんにとっても大きな前進になったのではないのでしょうか。

●最後に

今回の出張は何よりも榊川さんと竹森さんの実際の仕事の様子を現地の方にご紹介でき大変嬉しく思っております。そして、海外でぱれっとの商品を販売できたことは、私たちにとって今後の大きな自信と誇りになります。

このような貴重な機会を作っていたいただきました水島様、佐藤様、そして日本での事前準備にあたり応援して下さった皆様、現地にて私たちを温かく迎えサポートして下さったボランティアの皆様様に心から感謝し、御礼申し上げます。ありがとうございました。

(おかし屋ぱれっと 所長 長澤美佳)

(工房ぱれっと 玉井七恵)

報告2 第15回認定NPO法人ぱれっと社員総会開催報告

5月28(土)、地域交流センター恵比寿にて第15回社員総会が開催されました。当日の出席者61名、委任状提出者202名、議決権のある会員数419名(5月28日現在)の過半数となり、総会が成立、議長に田口雄一さんが選出され議事が進行しました。下記、すべての議案について、議案書通りに承認されましたのでご報告申し上げます。

- 【議案】第1号議案：2015年度事業報告 第4号議案：2016年度事業予算
第2号議案：2015年度会計報告 第5号議案：役員選任の件
第3号議案：2016年度事業目標

2016年度各事業の目標

法人運営(事務局)

■地域社会を意識した事業展開を目指す

今年度実施される移転は、新たな事業展開と安定した組織運営のために欠かせない大きなプロジェクトです。事業の拡大に伴い、スタッフの増員も計画されている中、改めて、地域社会に根差し、ぱれっとの理念共有と課題解決を目指すため、私たちが果たすべき役割を皆で考えていきたいと思えます。また、渋谷区自立支援協議会への参画や渋谷の福祉を考える有志の会などを通じて、行政や他団体とのパートナーシップを強化し、積極的にネットワークを構築していきたいと考えています。

余暇活動を障がいのある人たちと共に行なう事業 たまり場ぱれっと

■運営体制の改革

今年度は、職員の勤務時間の短縮や業務内容の見直しなど、たまり場ぱれっとにとって変化の年となります。これまで行なってきたプログラムを縮小せずに皆がやりたいことを実現していく方法をボランティア、参加者とともに現在話し合い中です。障がいのある参加者の中にも、主体的に活動のサポートをしてくれる人が増えてきています。たまり場ぱれっとに集う皆で自分たちの活動を創っていく、支えていく、という意識を持ち、イベントの企画や参加者のサポートなど、皆で担っていかれるように工夫していきます。今年度は新体制の土台作り集中する年になります。

障がいのある人たちを対象とした就労支援事業 おかし屋ぱれっと/工房ぱれっと

■新店舗にて地域の方々にぱれっとを知ってもらえるよう努める

この一年は地域の方々との関係性を深められるよう意識していきます。ぱれっとを知ってもらい、多くのお客様にお越し頂けるお店作りの展開に加え、引き続き売上UPを目指します。そして通所員が新たな場所に慣れ、仕事がより楽しく、頑張れる環境を作っていきます。

■より広く工房ぱれっとの製品の魅力を発信していく/その人の技術にあった製品の開発

昨年新たにつながった協力者との関係性も大切にしながら、さらに広く工房ぱれっとの製品の魅力を届けられるよう、販売や展覧会に積極的に参加してきます。作業場の移転後も通所員が安心して作業に取り組み、新たな気持ちでワクワクする製品が作れるようサポートしていきます。そして通所員一人一人の技術をより活かせる製品の開発にも努めます。

障害者総合支援法に基づく障害者福祉サービス運営事業及び緊急一時保護委託事業

えびす・ぱれっとホーム

■新グループホームとショートステイの開設と運営安定への取り組み

8月のグループホーム並びにショートステイの開設に向けて、東京都への事業申請書類の提出並びに現地確認、入居決定者とショートステイ利用希望者との契約等取り交わし、生活備品の設置、職員体制とシュミレーションなど、急ピッチで行なっています。とりわけ、新職員の雇用については、介護や福祉の現場に人が流れない厳しい状況ではありますが、職員体制の安定に努めます。また、福祉サービスの給付費や支援内容、建築物所有と自主管理にかかる運営資金の規模など、数年間は運営の安定に向けて模索が続きます。

知的障がい者を対象とした国際支援事業

国外の民間非営利活動の関係者との交流とそれらに対する研修事業

ぱれっとインターナショナル・ジャパン (PIJ)

■海外の活動団体とのつながりを深める

2016年度第一弾の活動としては、4月28日～5月3日にマレーシア・ペナンで開かれた「Warm heARTs」におかし屋ぱれっとの通所員、スタッフとともに参加、製品作成のデモンストレーションや販売を通して、私たちの事業を広める大変大きな機会となりました。また、アジアの障害者活動を支援する会(ADDP)からの要請で、7月には再びラオスを訪問、現地視察をする予定です。さらに来年開かれる、アジア知的障害会議(バングラデシュ)への参加準備も始めます。

広報・啓発活動事業

■問題提起・支援者獲得・資金調達を柱とした広報手段の充実

移転を契機に、課題の発信力強化や支援者、賛同者を募るため、様々なメディアを使用して広報活動を行ないます。第1弾として、「ぱれっとつうしん」の記事内容を見直し、新たな連載も始まります。また、ホームページの情報を改めて整理し、効果的な発信が行なえるよう再構築します。さらに資金調達やボランティアを含めた人材確保のためのツールも検討します。

障がいのある人となない人が共同生活するための事業

ぱれっとの家 いこっと

■入居者の関係づくりを中心とした、サポート体制の充実

昨年の振り返りや勉強会から、現在のいこっとが抱える課題や運営体制に対するヒントが得られました。共同での暮らしでキーワードとなるのは「関係づくり」ですが、とりわけ「入居者同士の信頼関係をどう構築するのか」については、障がいの有無に関係なく容易なことではありません。入居者同士の日頃の対話と向き合い方、様々な課題整理と多面的に検証する重要性、ご家族やいこっとサポートの会(運営委員)など側面的な支援者とのパートナーシップ構築と、客観的な意見交換の場の設定など、具体的に進めていきます。

●総会当日の様子

2015年度の中心となったのは、間もなく竣工を迎える新しい事業所の建設に関わる案件でした。昨年夏場の旧氷川敬老館解体工事に始まり、設計、業者選定、そして建設着工と、その都度様々な壁がありましたが、資金の面を含めて、多くの皆様のご支援とご協力により乗り越えて来られたことを、冒頭の挨拶で相馬理事長から感謝の言葉とともに報告しました。また、議事の中では、特に暮らしを支える事業において、渋谷区民の念願であるグループホーム増設にあたって、障がいのある人たちの高齢化など、深刻化する課題に改めて向き合った一年であったという報告がありました。その他にもたまり場ぱれっと主催の「わんさか祭り」(6月)は地域社会に根差す大きな一歩となり、また、スリランカで開かれたアジア知的障害会議(10月)ではおかし屋ぱれっとの通所員が発表者として参加、ヤマト福祉財団様からの助成金を頂いたこともあり、帰国報告会まで含めて大きな成果を上げたという話がありました。さらにおかし屋ぱれっとの商品を大手百貨店や大きなイベントなどで扱っていただける機会が増え、こうした動きを

含めて企業とのつながりが深まったという評価もありました。会計では、矢崎監事から監査が無事に完了したという報告があり、収入面では渋谷区、東京都からの大きな補助金、西武信用金庫様、また私募債などの借入金、費用面でも解体費、設計費などを含めて、収支ともに、今までになく規模の大きな決算となりました。

2016年度事業及び予算計画では、各事業は前頁の目標を立て、邁進していく決意をお伝えしました。いよいよ竣工を迎え、グループホームとショートステイの開所、引っ越しなどしばらくは慌ただしく過ぎていくと思いますが、引き続きご支援をお願いします。

●役員改選

今回は、役員改選の総会でもありました。下記にご報告しますが、今回をもって、小西智子さんが退任、代わって田代真紀子さんが親の会から理事に就任されました。小西さんには長年に渡りご尽力いただきましたこと心より御礼申し上げます。就任挨拶の中で「大役を引き受けるか2か月悩みましたが、がんばります」とお話しされた田代さん、ぱれっとの中核を担うひとりとして、これからよろしくをお願いします。

(認定NPO法人ぱれっと事務局長 南山達郎)

【2016年度～2017年度役員体制について】

役員の任期満了を受け、第五号議案にて2016年度～2017年度の役員体制について承認をいただきました。下記に氏名及び所属を記載します。なお、議事終了後に開かれました臨時理事会にて、定款第14条に基づき、理事長及び副理事長も選出されましたので合わせてご報告します。

【理事長】 相馬宏昭(再任)

【副理事長】 菅原睦子(えびす・ぱれっとホーム施設長/再任)

【理事】(順不同) 高橋知子(在宅福祉サービスウイズ理事長/再任)・西嶋美那子(元経団連障害者雇用アドバイザー/再任)・谷口奈保子(ぱれっとインターナショナル・ジャパン代表/再任) 前田薫(元伊勢丹関連会社社長/再任)・田口雄一(会社員/ぱれっとの家 いこっと運営委員/再任) 今井啓二(NPO法人ICT救助隊理事長/再任)・宮代幸枝(渋谷区立長谷戸小学校施設開放委員長/再任) 辻正雄(株式会社アーティストユニオン代表取締役社長/再任)・米岡文土(株式会社ニッコー情報システム部部长代行/再任)・田代真紀子(ぱれっと親の会/就任)・南山達郎(ぱれっと事務局長/再任)

【監事】 矢崎芽生(矢崎公認会計士事務所 公認会計士・税理士/再任)

報告3 と かいほうこくイン かまくらたにぐち たく お泊まり会報告in 鎌倉谷口さん宅

6月4日(土)～5日(日)、おかし屋ぱれっと前田哲さん、えびす・ぱれっとホーム松川久仁子さん、職員内藤、佐々木の4人で、鎌倉散策を行ない、その後鎌倉にあるNPO法人ぱれっと理事谷口奈保子さんの自宅にて、お泊まり会を開催しました。

●お泊まり会開催までの経緯

ぱれっと親の会のお母さん方から「自宅を離れて、普段とは違った環境の中で、楽しみながら様々なことを体験できる機会を作りたい」という話が出ました。東京からのアクセスも良い鎌倉の谷口さんのお宅を利用し、お泊まり会をしてはどうかとの話から、下見を実施した上で今回の開催に至りました。

●当日の様子

少し緊張した面持ちで、11時に恵比寿駅に集合し、一同鎌倉へ。4人で今後の予定を話し合う中で「あじさいが見たい!海もいいね」、「イルカショー見たい!」と話し、これから始まる旅に心躍る様子がいきいきした笑顔から伝わってきました。鎌倉駅に到着すると、溢れんばかりの人・人・人…驚きながら江ノ島電鉄に乗り、長谷寺に、光則寺といったお寺巡り、カレー屋さんでの昼食など、鎌倉散策を楽しみました。夕食は近くの蕎麦屋に出かけました。美味しい食事、食後の桜アイスに一同感激でした。家に戻ると、温かいお風呂とふかふかの布団が私たちの疲れを癒してくれました。

2日目の朝は海まで散歩し、曇り空で

したが、すがすがしい空気を味わいました。朝食を取った後谷口さん宅を出發。新江ノ島水族館でイルカショーを楽しみました。おかし屋とホームからの参加者だったので、一緒に行動する中でお互いを知る機会にもなったお泊まり会でした。

今回はお泊まり会第1弾でしたが、今後もメンバーを変えながら、年に2回は実施していく予定です。

(えびす・ぱれっとホーム 佐々木志保)

●参加者の感想

谷口さん宅に宿泊できて嬉しかったし、お風呂やベッドが気持ちよかったです。海やカレー屋さんをリクエストして、行くことができたのもよかったです。

(おかし屋ぱれっと 前田哲)

新江ノ島水族館で、楽しみにしていたイルカショーを見られたのが一番よかったです。谷口さん宅もみんなでお泊まりできて楽しかったです。

(えびす・ぱれっとホーム 松川久仁子)

電車内やお部屋で、日頃の生活の様子や趣味など、ゆっくりと話をする機会になり、新鮮な体験ができました。

(えびす・ぱれっとホーム 内藤直太郎)



【大満足の夕食、笑顔があふれました!】